

第4回 大野警察署協議会

開催日時	令和6年11月27日(水) 午前10時35分から午前11時35分まで
開催場所	福井県奥越合同庁舎 第2会議室
出席者	大野警察署協議会委員 4名 大野警察署署長以下 8名
協議会の概要	
1 議事概要 (1) 令和6年度大野警察署の取組結果 (2) 他警察署協議会取組結果の紹介 (3) 最近多発している特殊詐欺手口の紹介 2 意見・質疑及び応答 【他警察署協議会の取組結果について】 ○ 委員：あわら警察署協議会の提言にある「情勢変化に的確に対応する治安対策の推進」には、北陸新幹線の延伸開業による社会情勢変化への対応が含まれている。大野警察署協議会も「中部縦貫自動車道の全線開通による情勢変化への対応」を提言の1つに挙げていることから、何か参考になることはあるのか。観光地での取り組みは行っているのか。 ● 警察：あわら警察署では、J R 芦原温泉駅や、同駅に併設された施設「アフレア」を利用して防犯・交通安全広報を行っている。 ● 警察：観光地に特化することなく、地域全体で安全意識を高める施策が多いと聞いている。特にあわら警察署が独自で実施している「わんわんパトロール隊」については、本年から県警アプリ「ふくいポリス」の機能を活用して階級昇任を行うなど参加者のモチベーションアップと、防犯意識の向上につなげている。 このような地域全体で安全意識を高める施策などは、今後、大野警察署でも観光客が増大した際に参考になると考えている。 ○ 委員：11月から大野警察署と勝山警察署のブロック運用が開始されたが、先行して実施しているあわら警察署と坂井西警察署では問題は出ていないのか。 ● 警察：あわら警察署と坂井西警察署のブロック運用については、問題はないと聞いている。当署においても11月からブロック運用が開始されたが、現在のところ問題はない。 ○ 委員：ブロック運用になると、それぞれ違う警察署員が一緒に勤務することになるが、市民とすれば、警察署が違うことで対応が変わると困ると思う。そういうことはないか。 ● 警察：警察署が違うからといって、警察の対応に違いはない。 また、両署員間の連携なども問題は認められない。 ○ 委員：勝山警察署が実施している「いかのおすし」の啓発とは何か	

- 警察：これは、警視庁が考案した子供向け防犯標語である。
当署でも、少年警察補導員やスクールサポーターが管内こども園や小学校において同標語を活用して防犯指導を行っている。
大野だけでなく、勝山もあわせ奥越全体で実施している。
- 委員：防犯指導を行うことで通報などはあるのか。
- 警察：「携帯で写真を撮られた」などの不審者通報が入ることがある。こういう通報があるということは、ある程度効果のある取組であると考えている。
未成年者誘拐事案や、声掛け事案等も発生していることから、このような啓発活動は続けていかなければならないと考える。
- 委員：福井南警察署が実施している「管内高校の文化祭における広報」とはどのようなものか。
- 警察：文化祭会場に警察ブースを設け、指紋採取体験などを通じて警察の仕事を身近に感じてもらうなど、採用募集活動の一環としておこなったものであると聞いている。
- 委員：高校生くらいになると、被害者にも加害者にもなる可能性があるので、闇バイトや薬物乱用に関する広報を実施したのかと思った。
- 警察：委員が考える広報について、大野警察署では、少年警察補導員やスクールサポーターが管内高校に赴き、「正しいSNSの使い方」や「非行防止教室」などを行っている。また、採用募集活動についても、個別に公務員志望者に対する採用募集説明会を開催させていただいた。
- 委員：闇バイトや薬物乱用に関する広報を受けて、高校生らはどのような反応を示したのか。
- 警察：高校生による直接の反応はわからないが、非行防止教室を行っている少年警察補導員からは、学校側も生徒もしっかり聞いていると報告を受けている。
今年に関しては、高校生の非行事案は発生していないため、非行防止教室の成果であると考えます。

【最近多発している特殊詐欺手口の紹介について】

- 警察：特殊詐欺については、県下で連続発生しており、最近、大野警察署でも多額の被害を受けた事案が発生している。委員各位にもその手口を知っていただき、地域や職場などで広報していただきたい。
- 委員：実際に警察官が、口座が詐欺で使われているような内容の電話をすることはあるのか。
- 警察：警察が個別に電話することは絶対にない。
- 委員：一般の方は、警察などが個別に電話することがないことを知らないのではないか。
- 警察：特殊詐欺の被害に遭った方から話を聞くと、「手口は知っていたのに、言葉巧みに誘導されてしまった、危機感をあおられてしまった」など、被害者がパニック状態に陥ることで被害に遭うことが大半である。
警察をはじめとする公的機関や銀行などは、絶対に現金を要求しないしキャ

ッシュカードを預かったり、暗証番号を聞いたりすることも絶対にない。こういった場合は詐欺であるということを覚えて欲しい。

警察では、被害防止に向けた各種広報活動を行っているものの、被害があるということは、広報のやり方に問題があるのかもしれない。広報媒体や防犯対策も含め、被害防止に向けた対応を考えていかなければならない。

- 委員：例えば、「警察は現金を要求するような電話はしません」というような数秒程度のCMを放送すると、視聴者の記憶に残ることが多く、特殊詐欺の手口を周知することができるのではないか。
- 警察：警察署単独でCMを放送することは難しいが、警察本部や福井県などは、色々広報しているので、委員提案のスポットCMについても申し入れを考えていきたい。
- 委員：勝山警察署の取組にある「ダミーカード」とはどういうものか。
- 警察：ダミーカードは、県内のコンビニに配布しているもので、電子マネーカードが陳列されている棚に、「未納料金支払い用」や「パソコンウィルス支払い用」などと記載されたカードを陳列し、高齢者などが同カードをレジに持ってきた際、店員に「騙されていないか」と声を掛けてもらうことで、被害を未然に防ぐものである。
高齢者は、電子マネーカードのシステムを知らない方が多く、犯人が電話で指示する「未納料金」や「パソコンウィルス」などという言葉をもとにダミーカードをレジに持参するケースが多く、効果的な取組である。
- 委員：それはいい取組である。

3 開催状況



会長あいさつの様子



議事の様子①



議事の様子②